第 16 次いわき市水道事業経営審議会（第 11 回）議事録

- 1 日 時 令和元年 11 月 12 日（火） 午後 3 時～午後 5 時 05 分
- 2 場 所 水道局 3 階 第 1 会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員 (出席：13 名)
阿部健一、石山伯夫、伊藤幸恵、岩崎楨子、小野卓也、鈴木俊彦
佐久間幸子、高橋孝光、長谷山信一、福迫昌之、古川広子、俣田真志
吉田恭子
(欠席：2 名)
上遠野和村、吉田裕一
※ 50 音順・敬称略
 - (2) 事務局 上遠野管理者、加藤局長、志賀次長、大津総務課長、佐藤経営企画課長
黒羽営業課長、則政配水課長、永山工務課長、横田浄水課長
鈴木南部工事事務所長
○ 経営企画課
盛課長補佐、丹野企画係長
企画係〔稲村、木村、新井、吉田〕
- 4 会議形式 非公開
- 5 傍聴者 0 名
- 6 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 水道事業管理者あいさつ
 - (4) 議事
 - ア 台風第 19 号の豪雨災害による復旧作業状況等について（報告）
 - イ 会議の公開・非公開について
 - ウ 前回の議事録について
 - エ 答申（案）について
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 7 審議事項（審議要旨）

会長が欠席のため、副会長が議事の進行を務めた。

 - (1) 台風第 19 号の豪雨災害による復旧作業状況等について（報告）
事務局より台風第 19 号の豪雨災害による復旧作業状況等について説明を行った。

○ 委員から「今後の浸水防止対策に莫大な費用がかかるということだが、最近も強い雨が降るなど予断を許さないような天候が続いているため、現時点での暫定対策と今後の恒久対策をどのように考えているのか教えていただきたい。」との質問があり、事務局からは、「暫定対策については、現在は小型土のうを約 1,500 袋作り、平浄水場の各施設の入り口に高さ約 60 cm で積んでいる。恒久対策にはかなりの期間を要するため、今年度の 3 月までに大型土のうを平浄水場のフェンスの周りを囲むように 1.6m の高さで積む予定としている。恒久対策については、平浄水場がハザードマップ上は 2 m 以上の浸水区域に位置しているため、どの程度の浸水を見込んで対策を講じるのか検討する必要がある、また、対策方法についても防水扉や防水壁、もしくは浄水場の周りに堤防を建設するなど様々な方法があることから、来年度しっかりと計画を立てて、工事へと進めていきたい。なお、堤防の建設の場合は用地取得も必要になる。」との回答があった。

○ 委員から「暫定対策として大型土のうを 1.6m の高さで積むとのことだが、ハザードマップ上、平浄水場は 2 m の浸水区域に位置しているとのことであり、今回平窪地区は実際に 2 m 近く浸水している。今回の台風第 19 号により長野県にある J R の車両地が浸水したが、浸水想定地区であったにも関わらず何の対策もとられていなかったということで批判を受けていることもあり、このような水道局の暫定対策で市民が納得する対策になるのか疑問である。」との意見があり、事務局からは、「今回の平浄水場の浸水は、一番深いところで約 1.2m であったことから、暫定対策で高さ 1.6m の大型土のうを積むことにより、今回の規模の浸水であれば、浄水場の運転を安全に継続できるものと考えている。また、恒久対策については、どの程度の浸水を見込むのか費用対効果も含め、慎重に検討しなければいけないと考えている。」との回答があった。

(2) 会議の公開・非公開について

事務局より、本日の審議内容は、答申案の審議になり取扱いに慎重を期すべき案件のため、会議内容の公開・非公開について判断いただくよう提案があった。

審議会からは、慎重を期すべき案件が含まれていることから、答申案の審議については、非公開とする決定がされた。

(3) 前回の議事録について

前回（第 10 回）の議事録が了承された。

(4) 答申（案）について

事務局より、答申（案）について説明を行った。

○ 委員から、「資料 17 と資料 18 において、アセットマネジメント 3 C ・ 4 D という文言を使っているが、これはあくまでも記号であるため、3 C は標準型、4 D は詳細型とした方が良い。また、資料 18 の 8 ページ、(4)経営の効率化等のところで『アセットマネジメントを実施し、中長期的な水道施設の更新に関する費用を含む事業に係る収

支の見通しを作成・公表することとされている…』と書いてあるが、水道法の法文上にはアセットマネジメントの文言は出てこないため、「水道法の一部を改正する法律の概要」の中の文言を載せた方が良いと思う。」との意見があった。

○ 委員から、「本文の方には、今後は入ってくるお金が不足するため、基本料金の割合など料金体系を見直し、一般家庭にも多少の負担をお願いするというような記載をしているが、答申文には、その旨を記載しなくても良いのか。市民が答申文を読んだ際に料金体系が変わるだけで料金そのものは変わらないと思われるのではないのか。今は市民が水道に対して非常に興味を持っている時期のため、そういった時期だからこそ単なる料金体系の見直しだけでなく料金改定についても今後検討することを答申文にも載せた方が良いのではないのか。」との意見があり、事務局からは、「答申文については、今回の審議会の中では具体的に料金改定をする・しないという議論ではなく、あくまで理想的な料金体系を議論してきたという形にしている。審議会において、料金水準の見直しにつながるような文言にした方が良いという判断であれば、料金水準の見直しについては次期以降に設置する審議会ですら再度検討するというような文言を加えさせていただきたい。」との回答があった。

○ 委員から「施設の統廃合やダウンサイジングといった視点も含めて経営の効率化をしていくべきとの意見を答申文に加えていただきたい。」と意見があった。

○ 副会長から「これまで意見のあった修正箇所については、私と事務局に一任いただき、修正したものを答申前に委員に配付したうえで、市長に答申したい。」と提案があり、了承された。

(5) その他

○ 答申について

- ・ 日 時 11月21日(木) 15:00～
- ・ 場 所 本庁舎3階 秘書課応接室
- ・ 出席者 上遠野会長、吉田副会長

8 閉会